

十勝の農業概要と農地の整備



十勝農業農村フォトコンテスト
平成23年度グランプリ賞「夜明け前からの農作業」 芽室町
芽室町 栗野 秀明 様

【気象条件と農業概要】

- 気象は内陸部においては夏・冬の温度差が大きく、沿岸部は太平洋からの海霧の侵入による低温・日照不足が見られる。これらの気象条件下、平野部では畑作経営、山麓・沿岸部では畜産経営が展開されている。
- 夏季は比較的暖かく、帯広で大正13年7月に最高気温37.8℃を記録した。また、冬季は寒さが厳しく-34.9℃（大正11年1月）を記録したこともある。根雪が遅く積雪も少ないのことから冬の寒さによる土壤凍結が著しい。降水量は北海道では網走管内に次いで少ない。

【土壌】

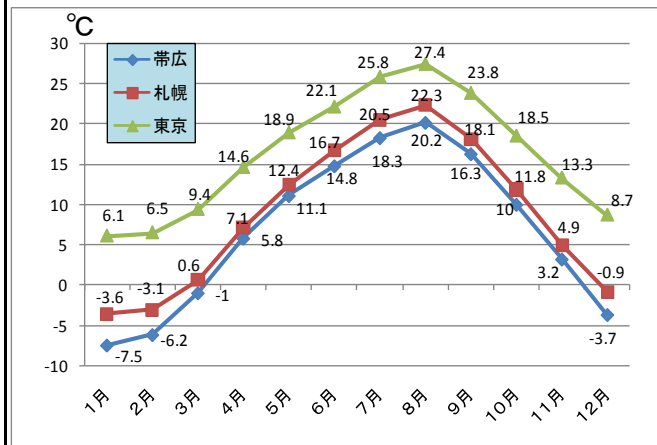
- 黒ボク土・低地土・台地土など排水改良を必要とする湿性土壌が多く占める。

○ [十勝の土壌の詳細については、こちらをクリック！](#)

【耕地面積】

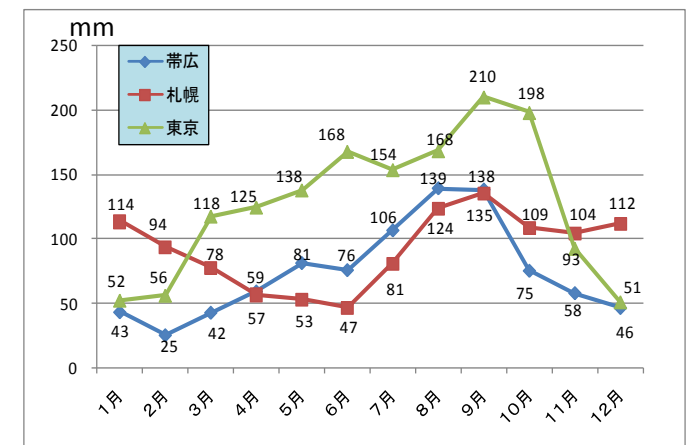
- 管内耕地の地目別面積割合は普通畑が約67%、牧草が32%
- 十勝管内の耕地面積全道シェアは約22%
- 管内農家の戸当たり経営面積は約41ha/戸で全道平均の1.6倍。全国平均を約2haとした場合、約20倍。
- 平成17年に比べ、5年後の平成22年では、戸当たりの耕地面積は、約3ha増加した。

■ 気温（平年）1981～2010



(気象庁・気象統計情報)

■ 降水量（平年）（1981～2010）



(気象庁・気象統計情報)

■ 耕地面積（H17）

(千ha)

	田	畑	耕地面積			耕地面積	戸当たり耕地面積(ha/戸)
			普通畑	樹園地	牧草地		耕地面積/農業経営体総数
十勝管内	0.8	255.4	172.0	0.1	83.3	256.2	37.2
構成率	0.3%	99.7%	67.1%	0.0%	32.5%	100.0%	
北海道	227.7	941.0	412.2	3.4	525.4	1169.0	21.4
十勝シェア	0.4%	27.1%	41.7%	2.6%	15.9%	21.9%	

耕地面積は、北海道農林水産統計年報（農業統計市町村別編平成16～17）。農業経営体総数は、農林業センサス

■ 耕地面積（H22）

(千ha)

	田	畑	耕地面積			耕地面積	戸当たり耕地面積(ha/戸)
			普通畑	樹園地	牧草地		耕地面積/農業経営体総数
十勝管内	0.8	254.3	-	-	-	255.1	40.5
構成率	0.3%	99.7%	-	-	-	100.0%	
北海道	224.6	931.7	-	-	-	1156.0	24.8
十勝シェア	0.4%	27.3%	-	-	-	22.1%	

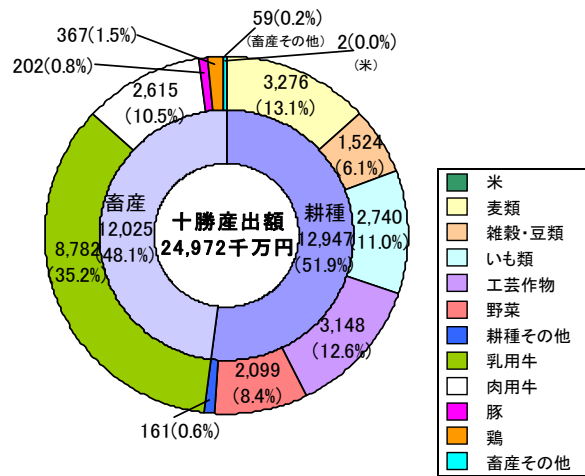
耕地面積は、農林水産省「耕地面積調査」。農業経営体総数は、農林業センサス。

※ 平成19年から農業産出額は、全国と都道府県ごとの公表となったことから、農林業センサスの調査年である平成17年のデータを掲載している。

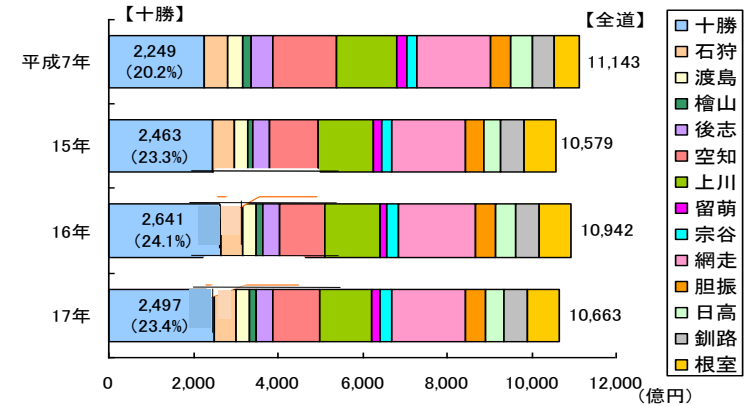
【農業生産のあらまし】

- 管内の農業産出額は全道の約23%を占め全道一
となっており、地域経済を支える主要な産業とし
て位置づけられている。
- 昭和50年に1,057億円であった農業産出額は畑
作、酪農の規模拡大や土地盤整備の実施など
により昭和57年に2,000億円を突破し昭和59年
以降、現在まで2,000億円台を記録している。
- 農業産出額の内訳は耕種部門で52%、畜産部門
で48%となっている。
- 気象は内陸部においては夏・冬の温度差が大き
く、沿岸部は太平洋からの海霧の侵入による低
温・日照不足が見られる。これらの気象条件の
下、平野部では畑作経営、山麓・沿岸部では畜産
経営が展開されている。〔再掲〕
- 畜産部門の内訳は乳用牛で7割、肉用牛その他で
3割弱。

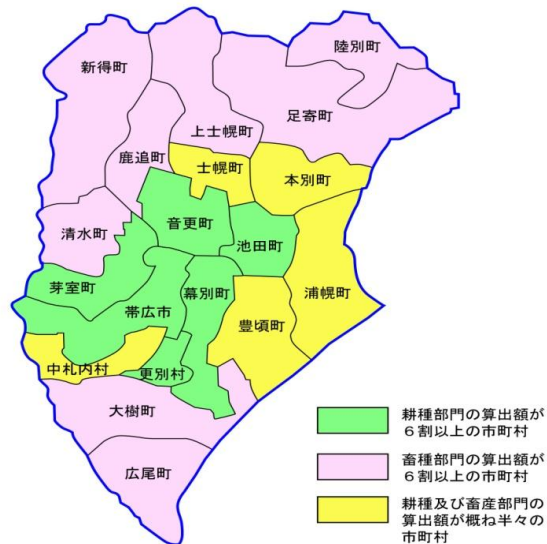
■ 農業産出額 (H17)



■ 農業産出額の支庁別北海道内シェア



■ 市町村別の農業産出額の構成 (平成17年)



■ 畜産の風景 (牧草の収穫)



○ 耕種部門の内訳は畑作4品（麦・豆・いも・ビート）で8割、野菜で2割弱。

■畑作4品の風景

【いも（馬鈴薯）・夏期の開花時】



【秋まき小麦・夏期の刈り取り時】



【ビート（砂糖の原料）・夏期の生育状況】



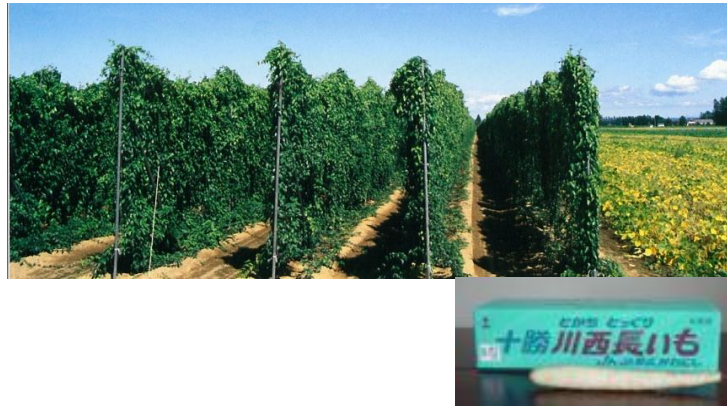
【豆・夏期の生育状況】



- 最近では、畑作4品（麦・豆・いも・ビート）以外の野菜などで、産地化に取り組む地域が増えている。

■ 野菜の風景

【ながいも・夏期の生育状況】



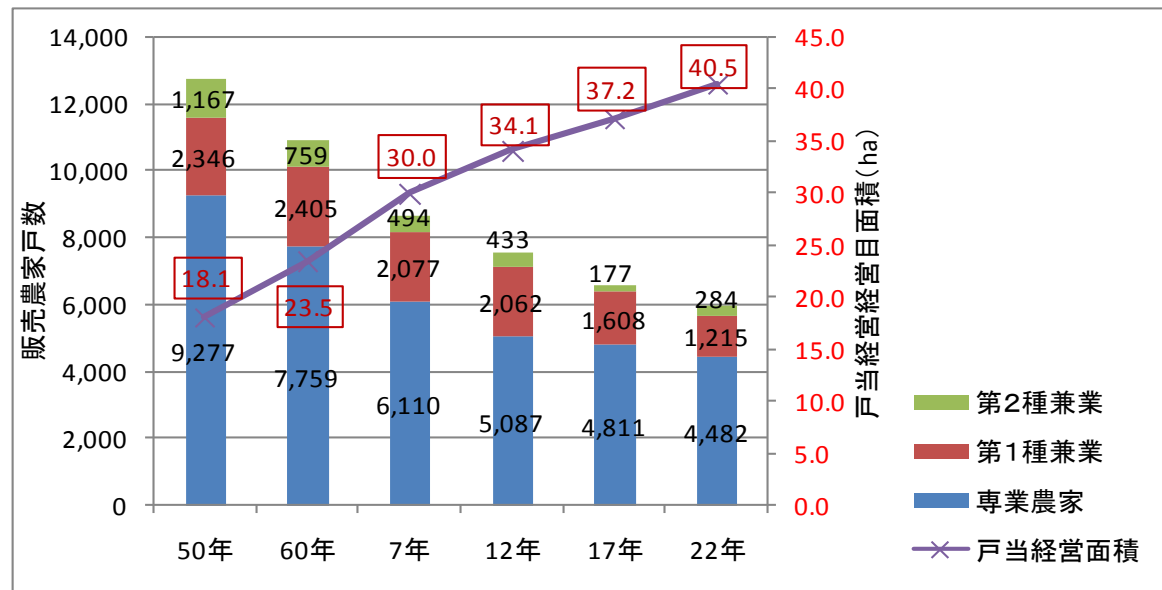
【にんじん・夏期の収穫時】



【経営規模の拡大状況】

- 販売農家戸数の減少は緩やかに進んでおり平成22年には5,981戸。総農家戸数(6120戸)に占める販売農家戸数は98%である。
- 専業業別で見ると専業農家が75%を占め、専業農家が生産の大部分を担っている。
- 農家戸数の減少に伴い、戸当たりの経営耕地面積が拡大(40.5ha/戸)しており、より効率的な営農が必要となっている。

■ 十勝管内の販売農家戸数と戸当たり経営面積



(戸当たり経営面積は、管内の耕地面積を総経営体数で除して算出した。)

【十勝における農地の整備】

- 十勝は、豊富な土地資源とすばらしい自然環境に恵まれ、規模拡大や基盤整備を進めながら、大規模経営を展開し、我が国の食料供給を担う重要な役割を果たしている。
- 基盤整備では、主に排水路や用水路、農道、そして農地の整備を実施してきましたが、特に農業生産に直結する農地の整備は、暗渠排水、区画整理、除礫、客土などを実施している。

■農地の整備

○暗きょ排水（あんきょはいすい）

農地の下に吸水管を設置し、農地の過湿を解消す



（吸水管を設置後、埋め戻し砂利の投入状況）

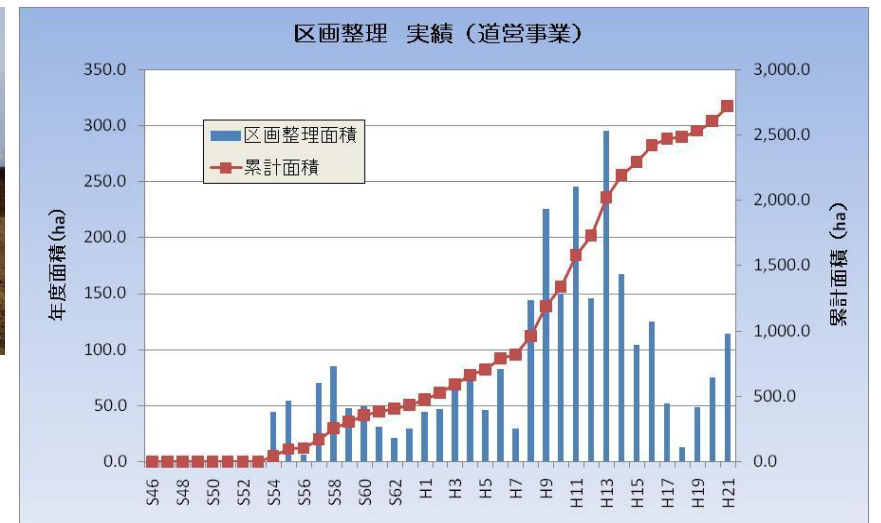


○区画整理（くかくせいり）

農地の急傾斜や窪地を修正し農作業の効率を改善する。



（勾配修正の状況）



○客土（きゃくど）

土砂を搬入し、作土の確保や物理性を改善する。



（土砂を畑に搬入している状況）

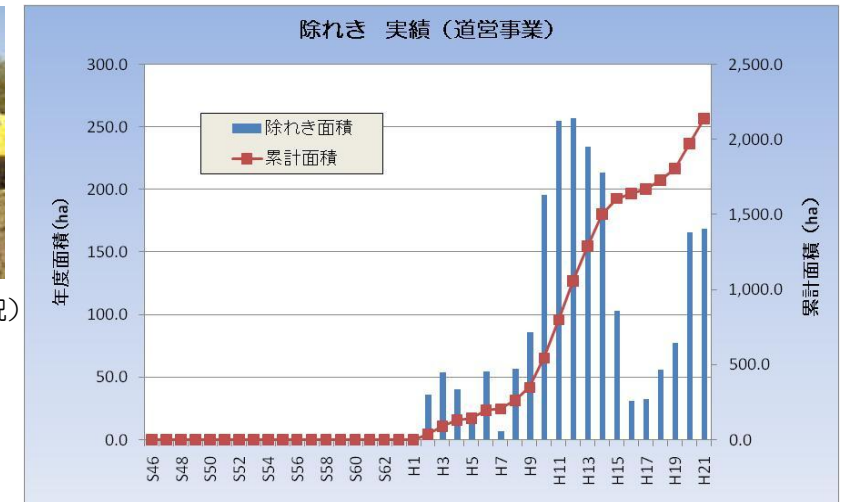


○除礫（じょれき）

作土から3.5cm以上の石を排除し、機械破損の軽減、作物品質を向上させる。



（作土を網状のバケットで振るっている状況）



[土勝総合振興局調整課のトップページに戻る](#)

[農業農村整備のトップページに戻る](#)

[「農業農村整備とは？」のページへジャンプ](#)

[「農業農村整備の効果」のページへジャンプ](#)